

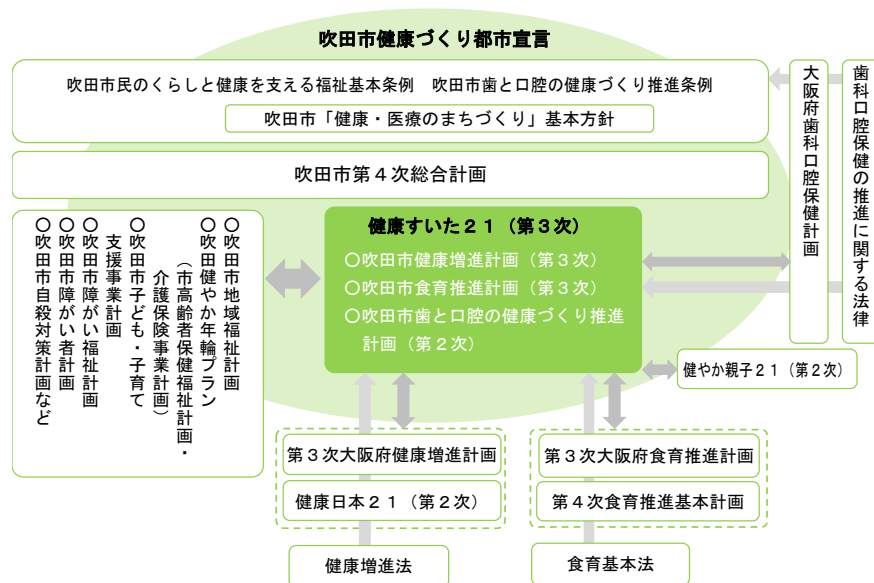
健康すいた21(第3次)の進捗

令和7年8月22日
健康まちづくり室

健康すいた21(第3次)の概要

健康すいた21は、健康増進法第8条に基づく「健康増進計画」、食育基本法第18条に基づく「食育推進計画」、及び吹田市歯と口腔の健康づくり推進条例に基づく「歯と口腔の健康づくり推進計画」などの健康づくりに関する施策を総合的に推進する計画。

計画の位置付け



計画期間：令和4年度～令和8年度の5年間

基本理念・目標

めざすべき
将来像

自分らしく、笑涯、輝く

基本目標

- ・健康寿命の延伸と
- ・生活の質(QOL)の向上

基本方針

- ・全ての世代の健康づくりと生活習慣病等の発症・重症化予防
- ・ライフステージ別の課題に応じた取組
- ・「楽しむ・輝く」をベースとした「暮らし」にとけこむ健康づくり

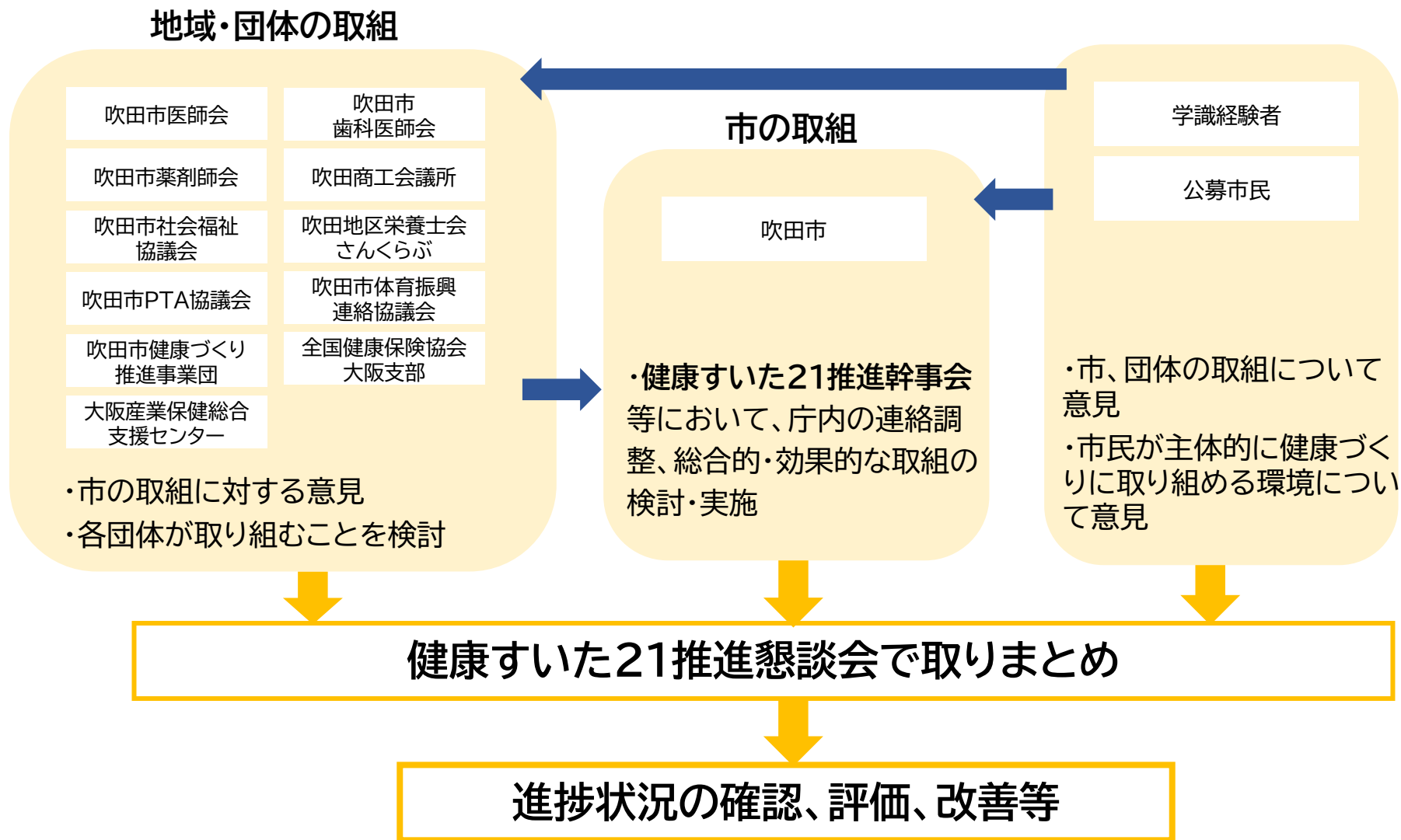
分野別の
取組

-  暮らしにとけこむ健康づくり
-  食べる
-  動く・出かける
-  眠る・癒す

-  歯と口腔の健康
-  たばこ
-  アルコール
-  診てもらう

計画の推進体制

各主体で、評価指標の目標値達成に向けた具体的な取組を推進



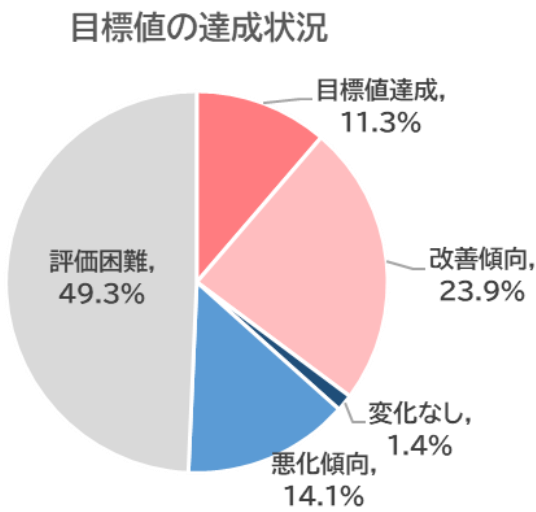
これまでの経過及び今後の流れ

年度	会議内容	計画の動き	
		第3次計画	第4次計画
令和4年度	- 健康すいた21(第3次)の進め方 - 分野別取組状況 (分野5歯と口腔の健康 分野6たばこ 分野7アルコール 分野8診てもらう)	計画開始	
令和5年度	分野別取組状況 (分野1くらしにとけこむ健康づくり 分野2食べる 分野3動く・出かける 分野4眠る・癒す)		
令和6年度	健康すいた21(第3次) 中間見直し(中間評価)について	中間見直し (中間評価)	
令和7年度	1 健康すいた21(第3次)進捗評価 - 各分野における指標の進捗 - 中間見直しで示す今後の方向性に基づく取組状況 2 健康に関する市民意識アンケート調査の実施 - ロジックモデルを基にした評価指標案と アンケート調査項目	健康に関する市民意識 アンケート調査の実施	
令和8年度	- 健康すいた21(第3次)の評価 - 健康すいた21(第4次)の策定	最終評価年	計画策定
令和9年度			計画開始

目標値の達成状況（令和6年度実績時点）

分野別の成果指標、取組の評価指標52指標、目標値71項目のうち、目標値達成(a)は8項目(11.3%)、改善傾向(b)は17項目(23.9%)となり、全体の35.2%で改善が見られました。一方、悪化傾向(d)は10項目で、全体の14.1%でした。

また、分野別でみると、「くらしにとけこむ健康づくり」「眠る・癒す」「歯と口腔の健康」は改善傾向((a)及び(b))以上の割合が高くなっています。



分野		目標値達成 a		改善傾向 b		変化なし c		悪化傾向 d		評価困難 e		計	
		成果指標	取組評価指標	成果指標	取組評価指標	成果指標	取組評価指標	成果指標	取組評価指標	成果指標	取組評価指標	成果指標	取組評価指標
①	くらしにとけこむ健康づくり	0	0	0	3	0	1	0	0	1	0	1	4
②	食べる	0	0	1	2	0	0	1	0	2	4	4	6
③	動く・出かける	0	1	4	0	0	0	0	2	1	2	5	5
④	眠る・癒す	3	0	2	0	0	0	1	1	0	0	6	1
⑤	歯と口腔の健康	1	2	1	1	0	0	1	0	1	4	4	7
⑥	たばこ	0	0	0	2	0	0	0	1	2	3	2	6
⑦	アルコール	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	3	1
⑧	診てもらう	0	0	0	0	0	0	0	1	10	5	10	6
計		4	4	9	8	0	1	5	5	17	18	35	36
		8		17		1		10		35		71	
		11.3%		23.9%		1.4%		14.1%		49.3%			

※計画策定時に基準値がない、計画策定時から中間評価までに数値の進捗が把握できなかった目標値は35項目あり、評価困難としています。

分野1 暮らしにとけこむ健康づくり 指標の進捗

評価指標			策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)	
				令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)			
成果 指標	①	健康づくりを目的とした活動を 続けている人の割合		45.3% (令和元年度)	—	—	—	—	増加	
	取組 の 評価 指標	② 健康経営に取り組む企業数		14企業	26企業	35企業	53企業	50企業	b	68企業
③ すいた健康サポーター養成講座 修了証交付者数(累積)		230名	279名	352名	467名	612名	b	700名		
④		生活習慣を改善する つもりはない人の割合	男 性	28.9%	28.2%	28.4%	27.4%	28.1%	b	25.0%
			女 性	20.3%	20.8%	20.4%	20.4%	20.3%	c	17.0%



【令和6年度時点の指標の進捗】

- ・「②健康経営に取り組む企業数」は基準値と比較すると増加しているが、前年度に比べると減少している。
- ・「③すいた健康サポーター養成講座修了証交付者数」は基準値と比較すると増加している。
- ・「④生活習慣を改善するつもりはない人の割合」は、基準値と比較すると男性は減少、女性は横ばいである。

分野1 くらしにとけこむ健康づくり 取組状況(取組照会より抜粋)

1 令和6年度／令和7年度の取組

地域団体の取組

- ・みんなの健康展における健康相談等の実施(医師会、歯科医師会、薬剤師会、地区栄養士会さんくらぶ、健康づくり推進事業団)
- ・健康を目的としないイベントで企業や大学等と連携し、各種測定や相談等を実施(健康づくり推進事業団)
- ・社会体育リーダー養成講座の開催(体育振興連絡協議会)
- ・いきいきサロンの開催(社会福祉協議会)

市の取組

- ・自治会活動の活発化を図るとともに、自治会だけではなく地域諸団体や新たな結びつきも含めた地域コミュニティの活性化を目指し、地域コミュニティアプリを導入(令和7年度)
- ・中の島公園及びスポーツグラウンドの再整備(令和7年度～令和8年度)

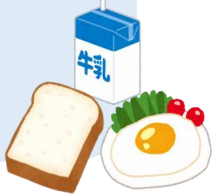




評価指標				策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)
					令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)		
成果指標	①	小・中学生の 肥満傾向の割合	小学生男子	7.6%	6.5%	7.0%	6.5%	6.3%	b	減少
			小学生女子	4.8%	4.6%	5.1%	5.1%	5.2%		
			中学生男子	8.1%	7.8%	7.9%	7.1%	7.6%		
			中学生女子	5.1%	4.7%	5.0%	4.8%	5.3%		
	②	朝食を欠食する人の割合	青年期	19.2% (令和元年度)	—	—	—	—	—	15.0%以下
			成年期	24.3% (令和元年度)	—	—	—	—		
	③	朝食を毎日食べる 子供の割合	小学6年生	95.7% (令和元年度)	95.1%	95.3%	94.4%	94.8%	d	100%
			中学3年生	92.3% (令和元年度)	92.7%	91.1%	91.3%	91.4%		
	④	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合		69.6% (令和元年度)	—	—	—	—	—	80%

【令和6年度時点の指標の進捗】

- ・「①小・中学校の肥満傾向の割合」は、基準値と比較すると小・中学生ともに、男子は減少、女子は増加している。一方で、コロナ禍以前と比較すると、中学生女子を除き、肥満傾向の割合が増加しており、特に男子において増加幅が大きい。
- ・「③朝食を毎日食べる子供の割合」は高い数値であるものの、基準値と比較すると減少している。





評価指標				策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)
					令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)		
取組の 評価指標	⑤	食塩の摂取 ア 塩分を多く含む食品を控えていない人の割合	青年期	74.5% (令和元年度)	—	—	—	—	—	減少
			成年期	61.0% (令和元年度)	—	—	—	—		
			中年期	44.8% (令和元年度)	—	—	—	—		
			高年期	18.9% (令和元年度)	—	—	—	—		
		食塩の摂取 イ 塩分を多くとる傾向がある人の割合	男 性	19.5%	19.5%	18.8%	18.8%	16.9%	b	18.4%以下
			女 性	4.8%	4.6%	4.6%	4.7%	4.7%	b	3.9%以下
	⑥	食事を一人で食べることがよくある子供の割合(夕食)	幼児期	0.6% (令和元年度)	—	—	—	—	—	減少
			小学生	0.4% (令和元年度)	—	—	—	—		
			中学生	6.8% (令和元年度)	—	—	—	—		
		食事を一人で食べることがよくある子供の割合(朝食)	幼児期	—	—	—	—	—	—	減少
			小学生		—	—	—	—		
			中学生		—	—	—	—		
	⑦	食育に関心を持っている人の割合		62.1% (令和元年度)	—	—	—	—	—	90%以上



1 悪化傾向の指標に対する取組

	小・中学生の肥満傾向の割合	朝食を毎日食べる子供の割合
課題	・新型コロナウイルス感染症拡大前と比較すると、増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の影響等により、運動時間等が減少し、スクリーンタイムが増加したこと等が影響したものと考えられる。学校や家庭、地域が連携し、子供たちの運動習慣の定着や、生活リズムの見直しを支援する必要がある。	・朝食の欠食等の食習慣の乱れは、肥満、やせ、低栄養、生活習慣病等につながるため、全ての世代に対して啓発の強化が必要である。



2 令和6年度／令和7年度の取組

地域団体の取組

- ・給食試食会で、小学生の子供を持つ保護者を対象に栄養講話を実施(地区栄養士会さんくらぶ)

市の取組

- ・国立循環器病研究センターと連携し、子供への食育と家庭での食生活改善を効果的に促すための教材(食育プログラム)の策定(令和6年度)
- ・国立健康・栄養研究所と連携した取組の検討(令和7年度～令和9年度)



分野3 動く・出かける 指標の進捗



評価指標			策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)
				令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)		
成果指標	① 定期的に運動をしている人の割合	男 性	38.5%	39.3%	39.0%	39.4%	39.7%	b	47.1%以上
		女 性	30.7%	32.4%	33.2%	33.1%	33.2%	b	37.8%以上
	② 定期的に運動をしている子供の割合		55.7% (令和元年度)	—	—	—	—	—	増加
	③ 短い距離(徒歩10分程度)なら歩く人の割合	男 性	83.7%	83.3%	83.9%	83.6%	84.0%	b	86.2%以上
		女 性	81.7%	82.1%	82.5%	82.3%	82.6%	b	82.8%以上
取組の評価指標	④ 健都で実施する各種プログラムの実施数		243回	1,130回	1,501回	1,569回	1,629回	a	1,035回以上
	⑤ 何らかの地域活動をしている高齢者の割合		30.6% (令和元年度)	—	—	—	—	—	増加
	⑥ 運動やスポーツが好きな子供の割合	小学5年生	89.2% (令和元年度)	84.6%	87.8%	86.4%	87.3%	d	94.0%以上
		中学2年生	82.7% (令和元年度)	79.4%	80.9%	80.6%	81.5%	d	90.7%以上
	⑦ フレイルの認知度		9.8% (令和元年度)	—	—	—	—	—	13.1%以上

【令和6年度時点の指標の進捗】

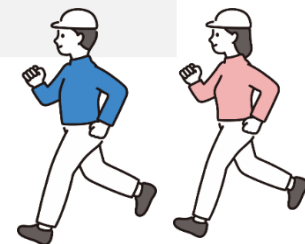
- ・「①定期的に運動をしている人の割合」及び「③短い距離(徒歩10分程度)なら歩く人の割合」は、男女ともに基準値と比較すると増加している。
- ・「⑥運動やスポーツが好きな子供の割合」は基準値と比較すると減少している。





1 悪化傾向の指標に対する取組

	運動やスポーツが好きな子供の割合
課題	・運動は子供の心身の発達に効果的であるとともに、その後のスポーツに親しむ資質や能力の育成にもつながることから、運動やスポーツへの多様な関わり方や楽しみ方を育むための工夫が必要である。



2 令和6年度取組／令和7年度取組

地域団体の取組

- ・様々な年齢を対象としたスポーツ行事、イベント等の実施(体育振興連絡協議会、健康づくり推進事業団)

市の取組

- ・吹田市スポーツ推進計画及び吹田市スポーツ施設整備方針を踏まえ、各スポーツ施設の整備について今後の方向性を整理したスポーツ施設整備計画を策定中
- ・子供から高齢者、障がい者など、様々な方たちがスポーツに親しめる機会や環境づくりの検討



評価指標				策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)
					令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)		
成果指標	①	ストレスを常に 感じている人の割合	男 性	5.9%	6.0%	5.8%	5.2%	5.6%	b	5.3%以下
			女 性	9.3%	9.0%	8.9%	8.7%	8.4%	a	8.4%以下
	②	睡眠時間を規則正しく取れる人の割合		86.2%	86.7%	85.7%	84.9%	84.4%	d	87.4%以上
	③	自己肯定感のある 子供の割合	小学6年生	83.1% (令和元年度)	76.9%	82.8%	86.1%	87.3%	b	91.5%
			中学3年生	73.1% (令和元年度)	75.5%	77.4%	81.1%	83.4%	a	81.6%
取組 の 評価 指標	④	ゆったりとした気分で子供と 過ごせている人の割合		91.0%	90.7%	91.4%	91.4%	91.3%	a	増加
	⑤	育てにくさを感じたときに 対処できる親の割合		86.4%	85.2%	83.0%	84.2%	82.2%	d	95.0%

【令和6年度時点の指標の進捗】

・「①ストレスを常に感じている人の割合(女性)」「③自己肯定感のある子供の割合(中学3年生)」「④ゆったりとした気分で子供と過ごせている人の割合」は、目標値を達成している。

・「②睡眠時間を規則正しく取れる人の割合」「⑤育てにくさを感じたときに対処できる親の割合」は基準値と比較すると減少している。





1 悪化傾向の指標に対する取組

	睡眠時間を規則正しく取れる人の割合	育てにくさを感じたときに対処できる親の割合
課題	・睡眠はこころの健康だけでなく、肥満、高血圧、糖尿病等の生活習慣とも関連が深い。そのため、日常的に質(睡眠休養感)・量(睡眠時間)ともに十分な睡眠を確保することが重要である。	・「育てにくさ」の背景にある多面的な要素を抽出・整理し、他職種の視点と併せて分析することで、潜在するニーズを明らかにし、適切な支援につなげることが必要である。

2 令和6年度／令和7年度の取組

地域団体の取組

- ・幼稚園、小・中学校における薬物乱用防止教室(薬の適正使用含む)の実施(薬剤師会)
- ・いきいきサロンや子育てサロンの開催(社会福祉協議会)

市の取組

- ・産後ケア事業の利用枠に「デイサービス型(短時間)」「アウトリーチ型」を追加(令和7年度)
- ・1歳半から3歳までの幼児の保護者を対象とした睡眠改善相談アプリ「ねんねナビ」を通じて、幼児の睡眠や生活リズムの改善を図るとともに、保健指導に活用(令和7年度)
- ・不登校児童・生徒への支援の強化として、居場所サポーターの配置校の拡大、教育支援教室「あるくの森」への発達相談員の配置、スクールカウンセラーの増進を実施(令和7年度)



分野5 歯と口腔の健康 指標の進捗



評価指標			策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)	
				令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)			
成果 指標	①	3歳児歯科健診における むし歯のない幼児の割合		90.7%	90.7%	93.5%	93.8%	94.9%	b	100%
	②	12歳(中学1年生)における 永久歯のむし歯経験歯数		0.58本	0.49本	0.52本	0.37本	0.38本	a	0.39本以下
	③	成人歯科健診における進行した歯周病にか かっている人の割合(35～44歳)		52.9%	55.6%	54.2%	52.0%	54.0%	d	36.2%以下
	④	80歳で20歯以上の 自分の歯を有する人の割合		69.4%	71.0%	72.0%	72.5%	数値未確定	—	72.7%以上
取組 の 評価 指標	⑤	歯科健診受診率		55.7% (令和元年度)	—	—	—	—	—	65.0%以上
	⑥	歯間部補助清掃用器具 の使用者の割合(歯間ブ ラシもしくはデンタルフ ロス使用者の割合)	35～44歳	71.5%	74.6%	80.9%	83.3%	84.0%	a	72.5%以上
			45～54歳	72.9%	77.3%	79.4%	81.8%	82.2%	a	73.9%以上
	⑦	食生活においてよく噛むことを 重視している人の割合		26.6% (令和元年度)	—	—	—	—	—	36.7%以上
	⑧	75歳以上で口腔機能の維持向上の方法を 知っている人の割合		12.4%	13.2%	14.2%	14.7%	14.1%	b	27.8%以上
	⑨	歯周病と糖尿病の関係について 知っている人の割合		60.2% (令和元年度)	—	—	—	—	—	増加
	⑩	オーラルフレイルについて知っている人の 割合		—	—	20.6%	—	—	—	13.1%以上

【令和6年度時点の指標の進捗】

- ・「②12歳(中学1年生)における永久歯のむし歯経験歯数」「⑥歯間部補助清掃用器具の使用者の割合(歯間ブラシもしくはデンタルフロス使用者の割合)(45～54歳)」は目標値を達成している。
- ・「③成人歯科健診における進行した歯周病にかかっている人の割合(35～44歳)」は基準値と比較して増加している。





1 悪化傾向の指標に対する取組

	成人歯科健診における進行した歯周病にかかっている人の割合(35～44歳)
課題	・歯周病は初期段階では自覚症状が少なく、気づかないまま進行することが多い。定期的な歯科健診の受診や、歯周病や全身疾患との関連について周知を図ることで、若い世代から、歯周病予防を意識し、悪化させない取組が必要である。

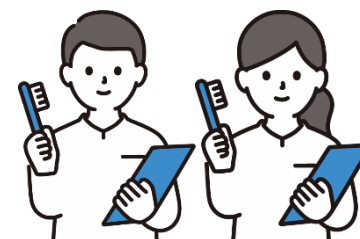
2 令和6年度／令和7年度の取組

地域団体の取組

- ・むし歯予防キャンペーン、高齢者よい歯のコンクール等の実施(歯科医師会)
- ・出前講座や健康教室等の実施(歯科医師会)

市の取組

- ・NATS(ナッツ)でいい歯プロジェクトとして、西宮市、尼崎市、豊中市、吹田市の4つの中核市で連携し、災害時の口腔ケアをテーマに啓発チラシや動画を作成(令和6年度)
- ・災害時の歯科保健と備えをテーマに開催した健康教室を実施(オンライン視聴、アーカイブ配信あり)(令和6年度)



分野6 たばこ 指標の進捗



評価指標			策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)
				令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)		
成果指標	①	喫煙率	11.1% (令和元年度)	—	—	—	—	—	5.0%
	②	受動喫煙の機会がないと答えた割合	29.4% (令和元年度)	—	—	—	—	—	増加
取組の評価指標	③	スモークフリーを知っている人の割合	—	—	23.7%	—	—	—	80%
	④	スモークフリー協賛機関数	—	—	—	527件 (9.4%)	577件 (10.3%)	b	市内事業者 の80%
	⑤	妊婦の喫煙率	1.0% (令和元年度)	1.0% (令和2年度)	0.9% (令和3年度)	0.8% (令和4年度)	0.7% (令和5年度)	b	0%
	⑥	COPDの認知度	41.5% (令和元年度)	—	—	—	—	—	80.0%以上
	⑦	禁煙チャレンジ助成金交付者数	65人	34人	21人	40人	29人	d	増加
	⑧	将来喫煙したくないと思う子供の割合	—	—	—	95.6%	95.6%	—	100%

①喫煙率(参考値)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
男性	20.1%	19.1%	19.5%	18.9%	18.6%
女性	5.6%	5.5%	5.7%	5.6%	5.2%

※吹田市30歳代健診及び吹田市国保健康診査問診結果より



【令和6年度時点の指標の進捗】

- ・「④スモークフリー協賛機関数」は基準値と比較して増加している。
- ・「⑤妊婦の喫煙率」は基準値と比較して減少している。
- ・「⑦禁煙チャレンジ助成金交付者数」は基準値と比較して減少している。

1 悪化傾向の進捗に対する取組

	禁煙チャレンジ助成金交付者数
課題	・交付者数の減少については、喫煙率の低下に加え、令和3年6月から禁煙補助薬の出荷停止に伴う、禁煙外来の一部休止等が影響しているものと考えられる。 ・喫煙率の減少に向け、禁煙チャレンジを始めとした、禁煙開始のきっかけとなるような働きかけが必要である。

2 令和6年度／令和7年度の取組

地域団体の取組

- ・会報誌へのスモークフリーに関する記事の掲載(商工会議所)
- ・小・中学校における薬物乱用防止教室(たばこ含む)の実施(薬剤師会)

市の取組

- ・江坂公園と豊津公園において卒煙支援ブース(密閉型喫煙所)の供用を開始(令和6年度)
(参考:令和5年度～JR岸辺駅北口とJR吹田駅北口の共用開始)
- ・市内小中学校9校、図書館5館でたばこに関する啓発展示を実施(令和6年度)
- ・令和7年4月の大阪府受動喫煙防止条例全面施行に伴い、客席面積30㎡超の飲食店は原則屋内禁煙となったため、条例に基づく、指導を実施(罰則あり)





評価指標				策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)
					令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)		
成果指標	①	妊婦の飲酒率		0.7%	0.4%	0.4%	0.4%	0.5%	b	0%
	②	多量飲酒者の割合	男 性	2.3%	2.6%	2.4%	2.5%	2.6%	d	1.7%以下
			女 性	0.38%	0.37%	0.35%	0.36%	0.44%	d	0.22%以下
取組の 評価指標	③	市民、関係機関対象の アルコール普及啓発の取組の実施回数		4回	6回	6回	6回	7回	a	増加



【令和6年度時点の指標の進捗】

- ・「②多量飲酒者の割合」はわずかな差ではあるが、男女ともに基準値と比較して増加している。
- ・「③市民、関係機関対象のアルコール普及啓発の取組の実施回数」は目標値を達成している。



1 悪化傾向の指標に対する取組

	多量飲酒者の割合
課題	・生活習慣病のリスクを高める飲酒量に関して、健康への影響を周知するとともに、アルコール関連問題に関する支援の充実が必要である。

2 令和6年度／令和7年度の取組

地域団体の取組

・小・中学校における薬物乱用防止教室(飲酒含む)の実施(薬剤師会)

市の取組

・アルコール製造会社と連携し、大学生向けに、アルコールに関する正しい知識の習得を目的に講義を実施



分野8 診てもらう 指標の進捗



評価指標				策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)
					令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)		
成果指標	①	要治療者における未治療者の割合 糖尿病	男性(国保)	31.1% (令和元年度)	32.4% (令和2年度)	30.8% (令和3年度)	—	—	—	減少
			男性(協会けんぽ)	42.5% (平成30年度)	41.5% (令和元年度)	38.3% (令和2年度)	—	—		
			女性(国保)	39.2% (令和元年度)	41.1% (令和2年度)	37.3% (令和3年度)	—	—	—	減少
			女性(協会けんぽ)	51.3% (平成30年度)	46.9% (令和元年度)	40.4% (令和2年度)	—	—		
		要治療者における未治療者の割合 高血圧	男性(国保)	29.3% (令和元年度)	31.7% (令和2年)	31.4% (令和3年度)	—	—	—	減少
			男性(協会けんぽ)	44.0% (平成30年度)	42.3% (令和元年度)	46.6% (令和2年度)	—	—		
			女性(国保)	34.5% (令和元年度)	36.8% (令和2年度)	36.6% (令和3年度)	—	—	—	減少
			女性(協会けんぽ)	47.1% (平成30年度)	44.5% (令和元年度)	48.8% (令和2年度)	—	—		
		要治療者における未治療者の割合 脂質異常症	男性(国保)	77.9% (令和元年度)	78.4% (令和2年度)	77.8% (令和3年度)	—	—	—	減少
			男性(協会けんぽ)	82.9% (平成30年度)	81.4% (令和元年度)	80.9% (令和2年度)	—	—		
			女性(国保)	68.9% (令和元年度)	67.5% (令和2年度)	66.4% (令和3年度)	—	—	—	減少
			女性(協会けんぽ)	81.5% (平成30年度)	80.7% (令和元年度)	80.3% (令和2年度)	—	—		
	②	国保健診におけるメタボリック クシンドロームの 該当者及び予備群の割合	男性(該当者)	24.7% (平成30年度)	24.3% (令和元年度)	26.2% (令和2年度)	26.4% (令和3年度)	—	—	18.5%以下
			男性(予備群)	22.7% (平成30年度)	23.4% (令和元年度)	24.4% (令和2年度)	23.8% (令和3年度)	—	—	17.2%以下
			女性(該当者)	5.7% (平成30年度)	5.7% (令和元年度)	6.5% (令和2年度)	6.4% (令和3年度)	—	—	4.3%以下
			女性(予備群)	7.7% (平成30年度)	8.1% (令和元年度)	8.6% (令和2年度)	8.3% (令和3年度)	—	—	5.8%以下



評価指標			策定時の 基準値 令和2年度 (2020年度)	実績値				進捗評価	目標値 令和8年度 (2026年度)
				令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)		
取組 の 評価 指標	③	かかりつけ医を持つ人の割合	64.4% (令和元年度)	—	—	—	—	—	78.0%
	④	かかりつけ歯科医を持つ人の割合	59.2% (令和元年度)	—	—	—	—	—	74.0%
	⑤	かかりつけ薬局を持つ人の割合	31.0% (令和元年度)	—	—	—	—	—	41.0%
	⑥	子供のかかりつけ医を持つ親の割合	81.6%	81.0%	81.2%	81.1%	81.3%	d	85.0%以上
	⑦	健診・人間ドック受診率	57.8% (令和元年度)	—	—	—	—	—	70.0%以上
	⑧	がん検診受診率	胃がん	45.7% (平成30年度)	—	44.9%	—	—	60%
			肺がん	52.0% (平成30年度)	—	53.5%	—		
			大腸がん	48.8% (平成30年度)	—	49.8%	—		
			乳がん	51.4% (平成30年度)	—	49.7%	—		
			子宮がん	49.8% (平成30年度)	—	50.5%	—		

【令和6年度時点の指標の進捗】

・「⑥子供のかかりつけ医を持つ親の割合」は基準値と比較して減少している。

※計画で設定した指標では評価困難であるため、参考資料を参照。





①要治療者における未治療者の割合

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	策定年比較
糖尿病	男性	30.2%	32.8%	32.0%	30.9%	30.4%	↑
	女性	34.7%	37.2%	36.6%	30.0%	37.0%	↑
高血圧	男性	36.4%	37.0%	36.1%	35.6%	31.6%	↓
	女性	43.2%	45.8%	40.9%	40.1%	39.7%	↓
脂質異常症	男性	71.8%	72.2%	72.1%	68.1%	67.7%	↓
	女性	67.3%	65.9%	64.3%	61.2%	59.6%	↓

②国保健診におけるメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合(法定報告値)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	策定年比較
男性(該当者)	26.4%	28.5%	28.5%	28.1%	26.8%	↑
男性(予備群)	21.7%	22.6%	22.2%	21.8%	22.9%	↑
女性(該当者)	7.2%	8.2%	8.2%	7.4%	7.6%	↑
女性(予備群)	7.1%	7.4%	7.1%	7.1%	7.0%	↓

⑧がん検診受診率(市が実施するがん検診)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	策定年比較
胃がん検診	2.6%	3.2%	3.0%	2.9%	3.4%	↑
大腸がん検診	8.0%	6.5%	6.6%	6.5%	6.2%	↓
肺がん検診	7.4%	5.9%	6.3%	6.2%	5.9%	↓
子宮がん検診	17.7%	17.0%	16.5%	16.1%	16.4%	↓
乳がん検診	19.3%	17.7%	17.3%	17.7%	17.3%	↓

【令和6年度時点の指標の進捗】

- ・「①要治療者における未治療者の割合」は、糖尿病において増加している。
- ・「②国保健診におけるメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合」は女性(予備群)を除き、増加している。
- ・「⑧がん検診受診率」は胃がん検診を除き、受診率が減少している。



1 悪化傾向の指標に対する取組

	子供のかかりつけ医を持つ親の割合	要治療者における未治療者の割合(参考資料より)
課題	・かかりつけ医を持つことは、過剰受診や救急外来の混雑を防ぎ、予防接種や健診の適切なタイミングの管理にも有効であるため、かかりつけ医を持つことの重要性を周知する必要がある。	・未治療状態が長期にわたると、脳や心臓、腎臓等の疾患や合併症を招くことから、早期に治療が開始できるよう働きかける必要がある。
	国保健診におけるメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合(参考資料より)	がん検診受診率(参考資料より)
課題	・食習慣の変化や身体活動量の低下等が影響しているものと考えられる。日常生活で無理なく実践できるよう、健康的な選択をしやすい社会環境整備と行動変容を促す仕組みが必要である。	・がんは生涯のうちに2人に1人がかかる身近な病気と言われていることから、定期的にがん検診を受診し、早期発見、早期治療につながるよう、正しい知識を啓発する必要がある。

2 令和6年度／令和7年度の実施

地域団体の取組

- ・中小事業者に対する集団検診・個別健診の実施(商工会議所)

市の取組

- ・国民健康保険被保険者に対する慢性腎臓病(CKD)重症化予防事業の開始。(令和7年度)
- ・国民健康保険被保険者に対する脳ドック助成の開始。(令和7年度)

